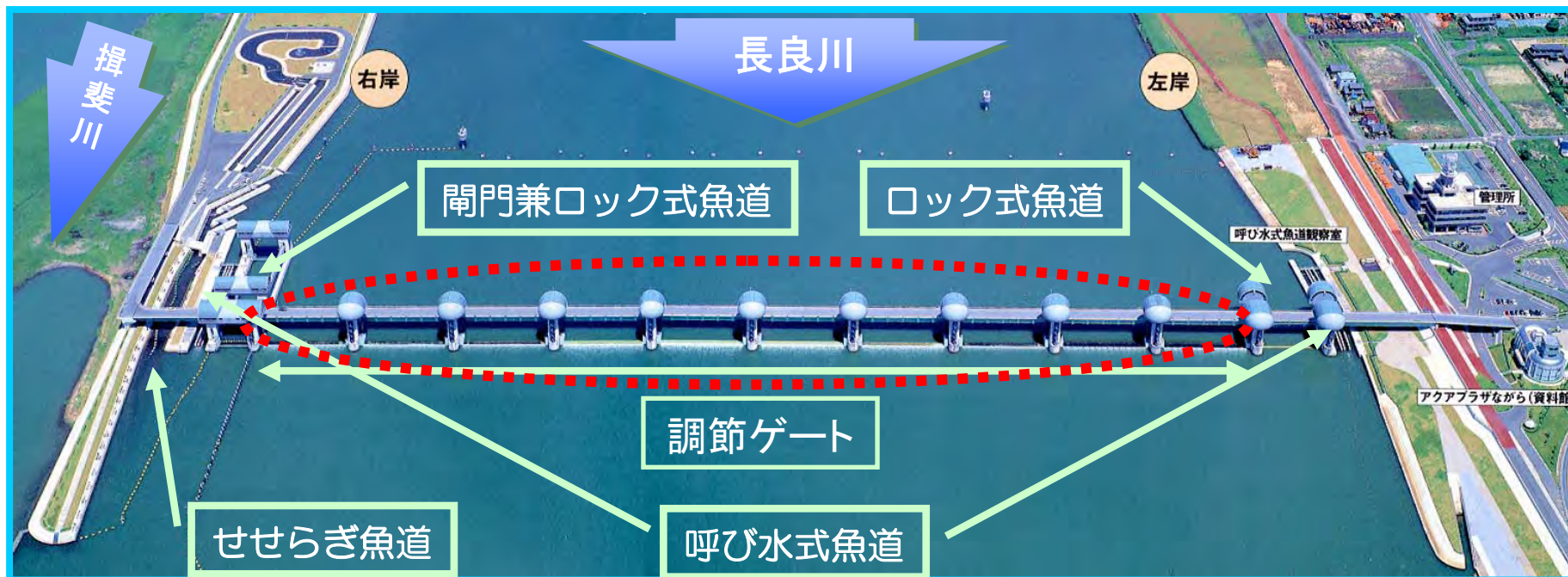


施設の概要

【河口堰の施設】

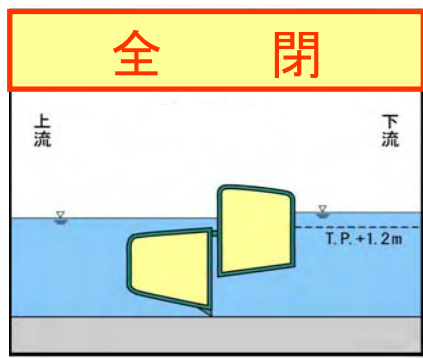
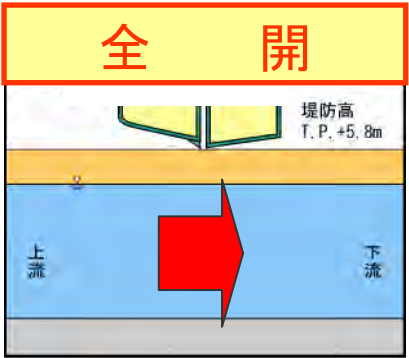
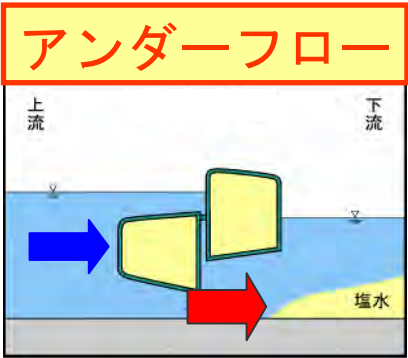
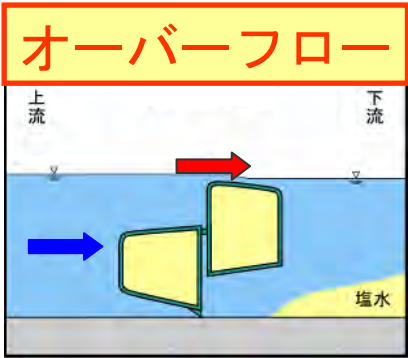
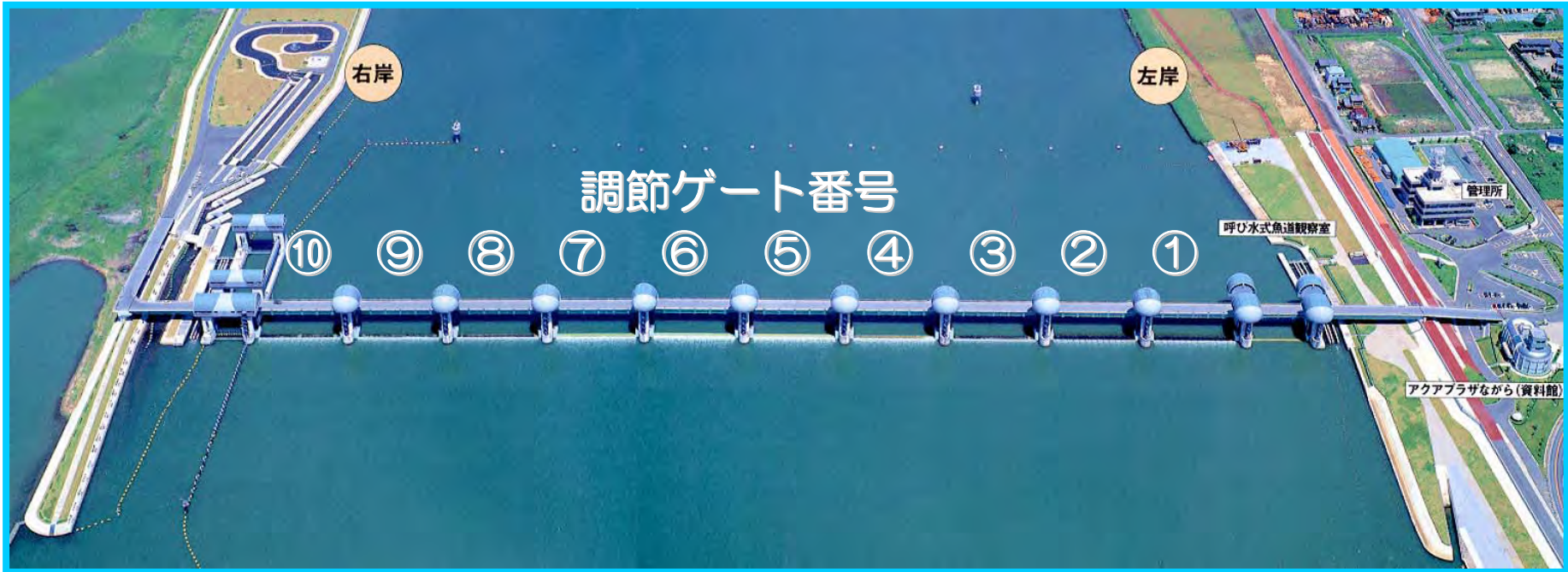


堰の構造

- 形式: 可動部(シェル構造2段式ローラーゲート)
- 総延長: 661m
- 可動部 延長: 555m
 - 調節ゲート 門数 10門 有効幅 45m、敷高 T.P.-2.5~-6.0m
 - 閘門 門数 1門 有効幅 15m、長さ 80m、敷高 T.P.-3.5m
 - ロック式魚道門数 1門 有効幅 30m、長さ 20.5m、敷高 T.P.-2.5m
- 固定部
 - 呼び水式魚道2ヶ所、溢流堤(人工河川、せせらぎ魚道)、左岸高水敷

※T.P. 東京湾平均海面

調節ゲート操作の形態

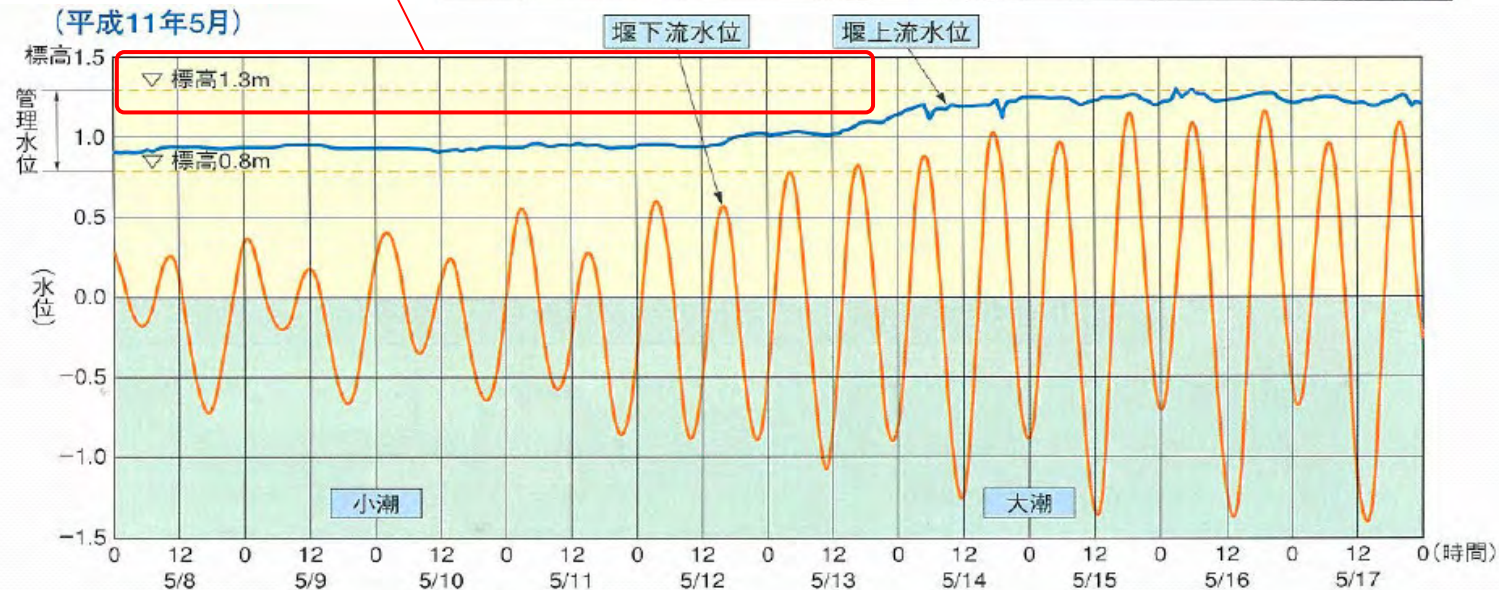
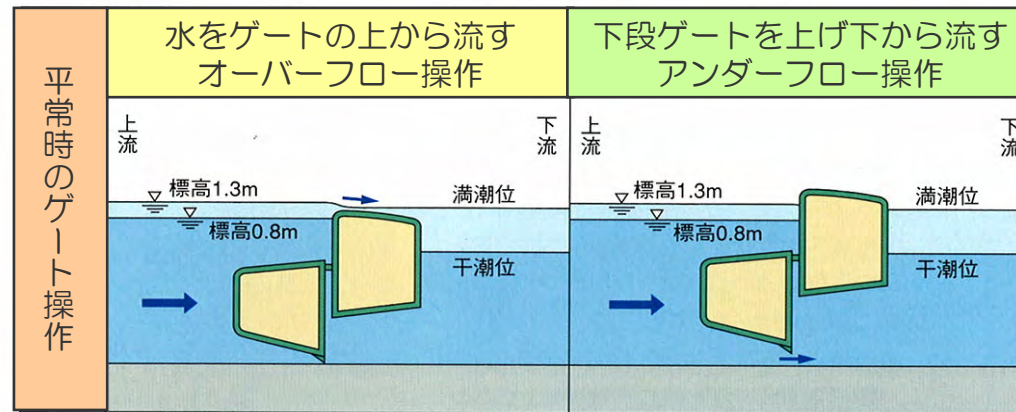


平常時の操作

- 平常時はオーバーフローを基本に上流から下流へ水を流します。
- 上流水位を平均満潮位標高1.2mより0.1m高い標高1.3mを上限とし、最低水位は標高0.8mの範囲で管理することを基本に、塩水の浸入がないよう操作を行っています。

魚道に必要な流量を確保した上で、出来るだけ上流水位を低く管理
2月1日～6月30日(7γ週上期)
... 11m³/s以上
7月1日～1月31日(7γ非週上期)
... 4m³/s以上

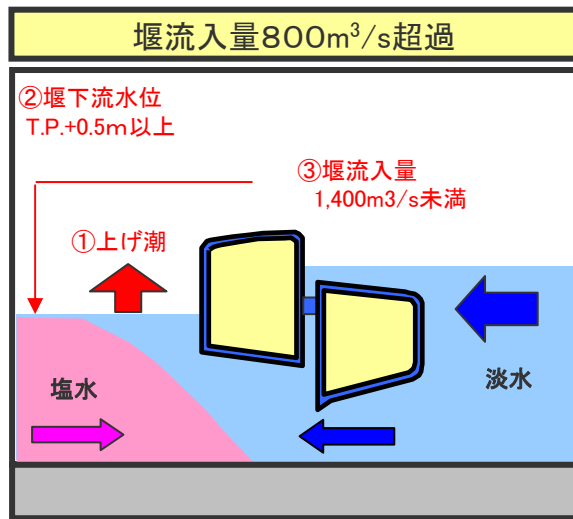
■ 実際の水位操作状況



洪水時の操作

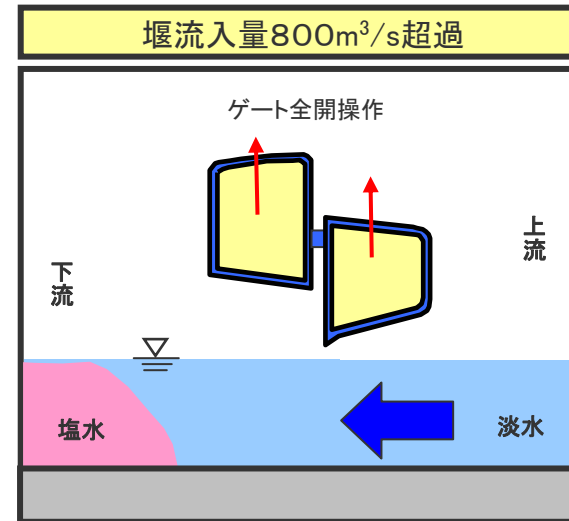
- 川の水の勢いが強く（堰流入量毎秒 $800\text{m}^3/\text{s}$ ）、ゲートがなくとも塩水が堰より上流に入らない場合には、洪水時の操作として、全てのゲートを堰付近の堤防より高く引き上げる全開操作を行います。なお、塩水の遡上のおそれがあるとき（①～③の条件がすべて重なるとき）は、アンダーフロー操作を継続します。

アンダーフロー操作（継続）



塩水の遡上のおそれがあるとき
(①～③の条件がすべて重なるとき。)
ただし、長島油島観測所の水位が
T.P+1.92m以下のときに限る。

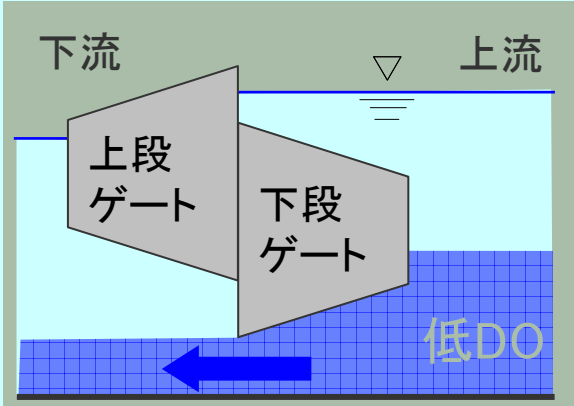
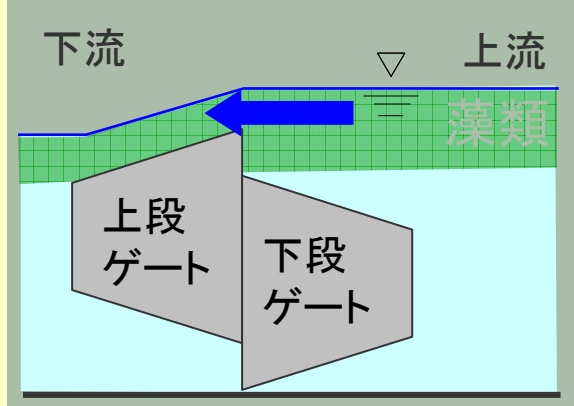
ゲート全開操作



①～③の条件のいずれかが外れたとき。
又は、長島油島観測所の水位が
T.P+1.92mを超えたとき。

フラッシュ操作

フラッシュ操作による水質保全効果

目的	堰上流の底層DO値の改善	堰上流の藻類対策
実施条件	伊勢大橋地点(河口から6.4km)の底層DOが6mg/L未満	伊勢大橋地点(河口から6.4km)の底層DOが6mg/L以上、クロロフィルa濃度が40 μ g/Lを上回る
操作形態	堰上流底層部のDOの低い水を下流に流出させるため、「アンダーフロー」操作を行う 	堰上流の藻類の多い表層水を下流に流出させるため、「オーバーフロー」操作を行う 

水質観測地点

シラベール 長良川等の水質を24時間監視する施設です。全部で8箇所設置して必要な監視項目を常時観測しています。

水質自動監視装置 位置図

